



80-10114 反射式天体望遠鏡 取扱説明書

安全上のご注意 ～必ず最初にお読みください～

ご使用の前には必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みいただき、正しく安全にお使いください。

※本説明書では誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を程度に応じ、「警告」と「注意」の2つに分けています。

本説明書では次のような表示絵を使用しています



禁止



発火注意



指を挟まれないよう注意



警告

この指示にしたがわないで誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

●太陽を絶対に見ないでください。失明の原因となります。



注意

この指示にしたがわないで誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性があります。また、物的損害が発生する可能性があります。



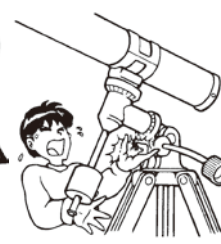
望遠鏡を不安定な場所に置かないでください。倒れたり落ちたりして、ケガの原因となることがあります。



望遠鏡の各部のネジの締め付けが確実でないと、抜け落ちたり転倒し、ケガの原因となることがあります。



望遠鏡を直接日光のあたるところに置かないでください。火災の原因となることがあります。ご使用にならないときはキャップをしてください。



マウントやギアに指を挟み、ケガをすることがあります。小さなお子様のご使用につきましては、特にご注意ください。



キャップやアイピース、ネジなどの小さな部品を、お子様が誤って飲むことがないようにしてください。万が一飲み込んでしまった場合は、直ちに医師に相談してください。

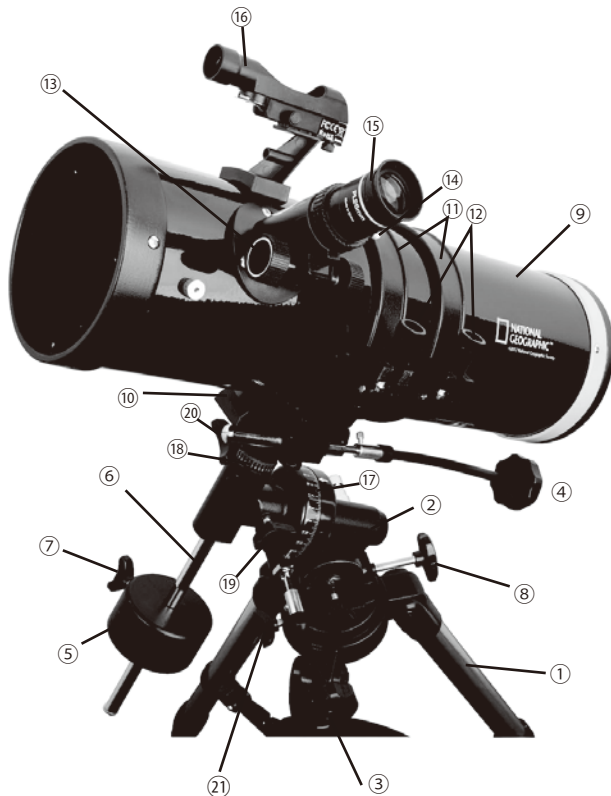


ポリ袋（包装用）など小さなお子様の手が届くところに置かないでください。口にあて窒息の原因になることがあります。

この取扱い説明書をお読みになる前に

- 本書の内容の一部または全てを無断で複製、転載することは禁じられています。
- 本書に記載された商品の仕様・デザイン・その他内容については、改良のため予告なく変更される場合があります。
- 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法にしたがってご使用願います。特に「安全上のご注意」に記載された内容につきましては厳守してください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がございましたらご連絡ください。
- 本製品の不適切な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任は負いかねますのでご了承ください。

各部の名称



- ① スチール三脚
- ② 赤道儀本体
- ③ 赤経微動ハンドル
- ④ 赤緯微動ハンドル
- ⑤ バランスウエイト
- ⑥ ウェイトシャフト
- ⑦ ウェイト固定ネジ
- ⑧ 高度調整クランプ
- ⑨ 鏡筒
- ⑩ アリ型プレート
- ⑪ 鏡筒バンド
- ⑫ 鏡筒バンドロックネジ
- ⑬ ピント調整ノブ
- ⑭ 接眼レンズ固定ネジ
- ⑮ 接眼レンズ
- ⑯ ファインダー
- ⑰ 赤経目盛環
- ⑱ 赤緯目盛環
- ⑲ 赤経クランプ
- ⑳ 赤緯クランプ
- ㉑ 架台止めネジ

梱包内容



鏡筒本体

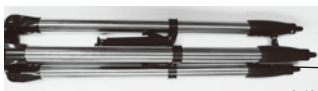


接眼レンズ
(PL26mm、9.7mm)

バランスウエイト



ウェイトシャフト



三脚

三脚伸縮止めネジ



取り扱い説明書



アクセサリートレイ



ファインダー



アリ型プレート



鏡筒バンド



六角レンチ

本製品には以下のものが梱包されています。万一不足しているものがありましたら、お買い求めの販売店又は弊社までご連絡ください。また、製品の形状や色は写真と異なることがあります。

※本製品の化粧箱に「ソフトウェアのダウンロード」「Star Mapのダウンロード」の記載がありますが、日本向け製品ではダウンロードできませんので、ご了承ください。

天体望遠鏡の組み立て方

●組立の前に・・・

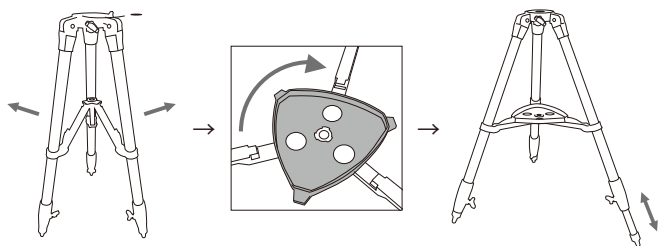
天体望遠鏡にはたくさんの部品が付属されています。前項の「梱包内容の確認」をご参照の上、組立前の部品が揃っているか必ずご確認ください。本書にはいろんな天体望遠鏡の部品名称が出てきます。「各部の名称」をご参照の上ご熟読ください。

初めて望遠鏡の組み立てを行う場合、明るい場所（室内など）で行いましょう

ネジなどの部品を紛失しないよう注意してください

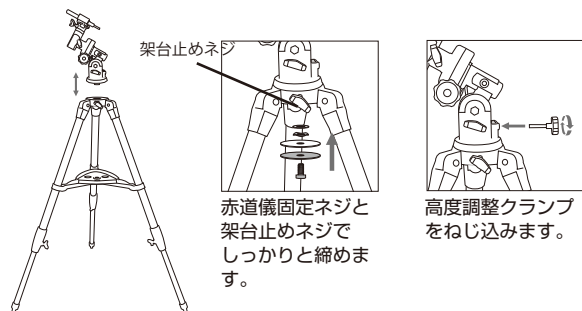
天体望遠鏡の組立は重い部品を扱いますので、お子様のみでの作業はおやめください。必ず、大人の方と一緒に組み立ててください。

1. 三脚の据え付け



- 1) 三脚をステーが水平になるまで開きます。
- 2) 次にステーの真ん中にアクセサリートレイを回して取り付けます。
- 3) 三脚伸縮止めネジをゆるめ、お好みの長さに調整しねじを締め固定します。3本とも同じ長さにするのがポイントです。

2. 赤道儀の取り付け

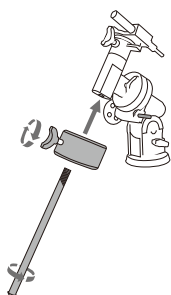


- 1) 三脚上部に取り付け、赤道儀固定ネジと架台止めネジでしっかりと締めつけます。
- 2) 次に高度固定クランプを緩め高度調整クランプをねじ込みます。指標が 30 ~ 40° 位にくるまでねじ込み、高度固定クランプを締めます。

※架台の架台止めネジ部分には芯棒が入っていますのでなくさないように注意してください。

赤道儀の組立作業中、指を挟まないよう注意してください

3. バランスウエイトの取り付け



- 1) 赤道儀の向きを左図のように合わせ、赤経・赤緯クランプをそれぞれしっかりと固定します。
- 2) 次にウエイトを取りつけます。まず、ウエイト固定ネジをゆるめ、ウエイトシャフトに通しウエイト固定ネジを締めます。そしてそのまま赤道儀に取りつけます。

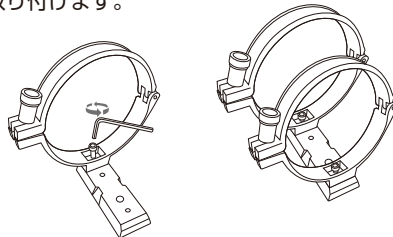
バランスウエイトは重いので扱いには注意してください

4. 鏡筒の取り付け

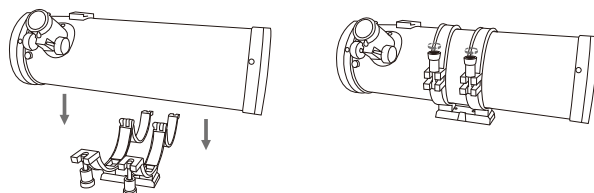
赤道儀に鏡筒を取り付ける前に、
・赤経クランプや赤緯クランプがしっかり締まっている
・バランスウエイトがウエイトシャフト下部にあることを確認してください

- 1) まずは、アリ型プレートに鏡筒バンドを取りつけます。アリ型プレートについている鏡筒固定バンド止めネジを外します。

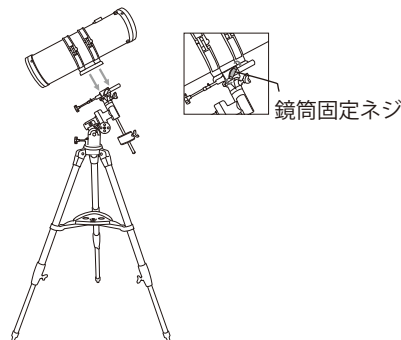
- 2) 右図のように鏡筒バンドを 2 個、アリ型プレートに取り付けます。



- 3) アリ型プレートに鏡筒バンドが取りつきましたら、鏡筒バンドロックネジをゆるめ開いてください。そこに鏡筒を載せ、再び鏡筒バンドロックネジを締めてください。



- 4) 鏡筒を赤道儀に取りつけます。鏡筒固定ネジをゆるめアリ溝に、鏡筒がセットされたアリ型プレートを取り付け、鏡筒固定ネジを締めます。

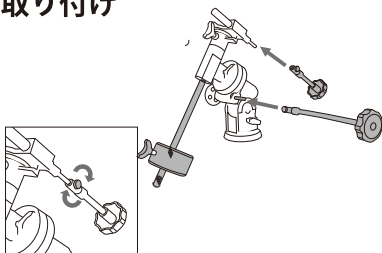


取り付ける向きは、取扱い説明書表紙の写真と同じになるようにしてください。また、取付ける際には、落下に注意し、慎重に作業してください。

鏡筒を回転させる際には、鏡筒固定ネジをゆるめ一度鏡筒バンドを開いてから回転させて鏡筒バンドを閉じてから鏡筒固定ネジを締めてください。

5. 微動ハンドルの取り付け

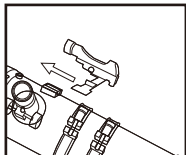
微動ハンドルを取りつける場所には平らになっている場所があります。固定ネジをその場所に固定してください。(違う場所に取り付けると微動ハンドルを回しても動かない場合があります)



赤経微動ハンドルは、両側に取り付け可能です。お好みにより選択してください。また、微動ハンドルを固定するネジは小さいので無くさないよう注意してください。

6. ファインダーの取り付け

ファインダーを鏡筒にあるファインダー取付け部に差込みます。



観測前に、ファインダーの光軸調整が必要となります。(7ページをご参照ください)

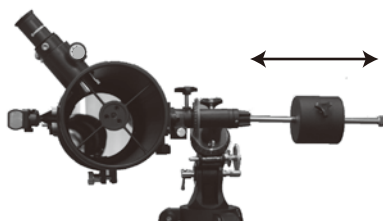
7. バランスウエイトのバランスの取り方

赤道儀式望遠鏡では、望遠鏡全体のバランスを取ることがとても重要になってきます。バランスを取らないと、偏った重心になってしまい、転倒や破損のおそれがあります。必ずこの作業は行ってください。

赤経クランプをゆるめ、下の写真のように赤経軸を水平にし、赤経クランプを締め固定します。



赤経クランプをゆるめ、片手で鏡筒、もう一方でバランスウエイトを支え、両手を使って両方のバランスを取る作業をします。バランスは、バランスウエイトを動かし、適度な位置でしっかり固定します。

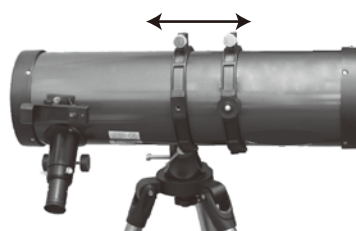


8. 鏡筒のバランスの取り方

赤経クランプを締めて、鏡筒が動かないように固定します。次に赤緯クランプをゆるめて鏡筒が地面と平行になるように回します。ゆっくりと手を添えながら離し鏡筒が回転する方向を確認します。この際、完全に鏡筒から手を離さないでください。



赤緯クランプがゆるんだ状態で、赤道儀の鏡筒ロックネジを少しゆるめ、鏡筒を前後に少しずつ動かしバランスをとります。この際に絶対に鏡筒から手を離さないでください。バランスがとれましたら、再度鏡筒ロックネジを締めてしっかりと固定します。



バランスがとれましたら、全体を右図の位置に戻します。



赤緯微動ハンドルを使う時の注意

赤緯微動ハンドルは、一定方向に回し続けると、固くなり回らなくなってしまい破損の恐れがあります。それを避けるため下記の写真のように、ギアの位置を導入のたび微動ハンドルを回転させ直してください。



端に寄っている



端に寄っている



真ん中に来ている

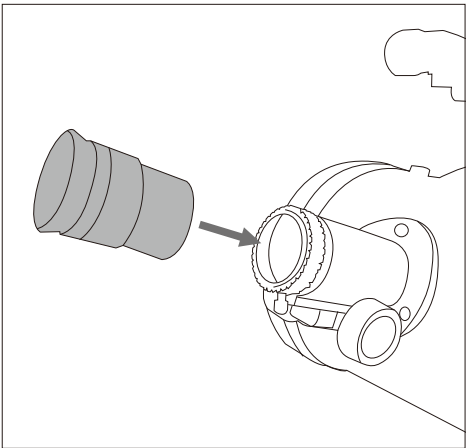
接眼レンズの使い方

●接眼レンズを装着しましょう

天体望遠鏡で観察する時は、必ず接眼レンズを使わなければいけません。

※接眼レンズを使わないと、何も見えません。

接眼レンズを右図のように取り付け、接眼レンズ固定ネジでしっかりと締めてください。



●適正倍率で観察しましょう

「天体望遠鏡は倍率が高いほどよく見えるのではないか？」と思いがちですが、倍率を上げていくと対象物が暗くなり、見にくくなります。最初は低い倍率で観察し、徐々に倍率を上げていきましょう。

倍率		観察に適した倍率
接眼レンズ	倍率	低倍率（20 ～ 40 倍）：月全景・明るい星雲・星団など 中倍率（40 倍～ 80 倍）：月面・惑星（金星・木星）など 高倍率（80 倍以上）：月面クレーター・惑星（木星・土星・火星）・二重星など ※星雲・星団などの暗い天体は、雲のようにモヤッと見え、写真のように鮮やかには見えません。（星雲や星団の写真は、長時間露出を行なっています。）
26mm	約 19 倍	
9.7mm	約 52 倍	

●倍率の求め方

天体望遠鏡の倍率は、計算式で簡単に求めることができます

$$\text{倍率 (倍)} = \frac{\text{望遠鏡本体の焦点距離 (mm)}}{\text{接眼レンズの焦点距離 (mm)}}$$

例) 80-10114 反射式天体望遠鏡に 26mm のアイピースを使用した場合
$$\frac{\text{望遠鏡本体の焦点距離 (500mm)}}{\text{接眼レンズの焦点距離 (26mm)}} = \text{約 19 倍}$$

●天体望遠鏡では正立像では見られません

ニュートン式反射望遠鏡は、主に天体の観測を目的として作られています。天体は暗い対象物が多く、望遠鏡内にレンズやプリズムを多用するとその分減光してしまうので、最低限のレンズ構成で設計されています。そのため、正立像では見られませんのでご注意ください。

※双眼鏡などは内部にプリズムが入っていて、逆像を正立像に戻しています。

ファインダーの光軸調整

●ファインダーの役割

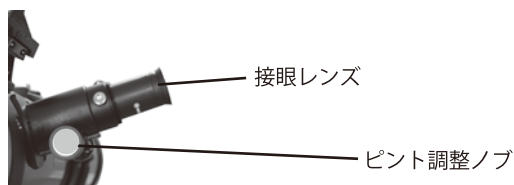
望遠鏡本体で目的の星を探そうとしても、上手にたどり着くことは倍率が高いため非常に困難です。そこで、倍率の無い（等倍）ファインダーを使い目的の星を探す作業をします。このファインダーを利用して望遠鏡本体の視野中央に導入するためには、予めファインダーの光軸調整をする必要があります。以下の手順に従って、観察の前には必ずファインダーの光軸調整を行ってください。

●光軸調整の方法

光軸の調整は、晴れた昼間に行いましょう。

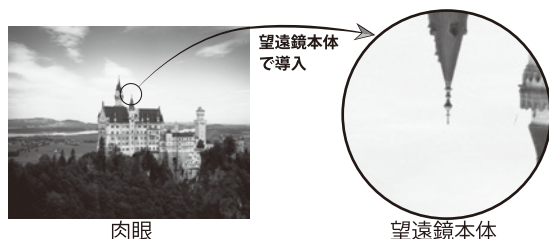
※夜間では、目標物を探すのが大変です

1. 鏡筒本体に接眼レンズ 26mm を取り付けてください



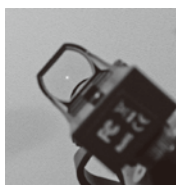
2. 鏡筒本体に取り付けた接眼レンズをのぞき、1Km 以上離れた目標物を視野の中央に導入してください。

導入する時は、赤経クランプと赤緯クランプをゆるめ動かしてください。導入後は、しっかりと締め固定してください。

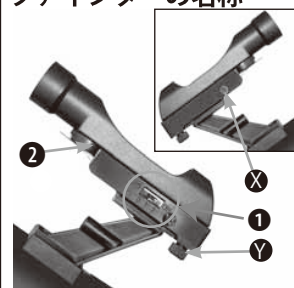


ピントが合ってなくボケてる場合は、ピント調節ノブをゆっくり回してピントを合わせてください

3. 次にファインダーの中心に赤い点を映し出します。ファインダー本体にある電源スイッチを回し電源をON にします。
※この赤い点は、電池で作動します。



ファインダーの名称



X：水平調整ネジ
Y：上下調整ネジ
1：電源スイッチ
2：電池ボックス

4. ファインダーを覗き、ファインダーの視野中心にある赤い点に2で導入した目標物がくるように、水平・上下方向の調節ネジをそれぞれ回し、ファインダーを調節します。

望遠鏡本体とファインダーが同じ方向に向くようにする作業です



5. ファインダーの調整作業は完了です

ファインダーの光軸調整は、ご使用のまえに必ず行ってください。最初は難しいかもしれませんが、回数をこなすうちに慣れ、調整作業がスムーズに行えるようになります。

ファインダーや望遠鏡本体で、太陽は絶対に見たり向けたりしないでください。また、太陽をファインダー調整の対象物にしないでください。失明のおそれがあり、また、発火の恐れもあります。

赤道儀の使い方

●天体望遠鏡の構成

天体望遠鏡は、大きく分けて「鏡筒（きょうとう）」「架台（かだい）」「三脚（さんきやく）」のパーツから成り立っています。その架台は「赤道儀（せきどうぎ）」「経緯台（けいいだい）」の2種類があり、用途に応じて使い分けられています。

●赤道儀と経緯台

< 赤道儀 >

夜空に輝く星は、北極星を中心に東から西方向に動いています。これを日周運動と呼び、約1日で1回転します。その動きに合わせて考えられたのが赤道儀です。経緯台では縦・横両方動かして観測する星を追いかけますが、この赤道儀は、東西方向の動きをする「赤経（せつけい）軸」一方向を動かすだけで、星を追いかけることが可能です。



< 経緯台 >

カメラ三脚と同様に、縦・横の動きをします。動きが単純なので、初心者でも扱いやすい反面、動いて行く星を追いかけて行くのは慣れないと大変な作業となります。



●赤道儀をセッティングしよう！

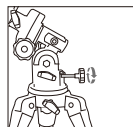
赤道儀は、北極星を使って望遠鏡の回転軸と地球の回転軸を合わせる作業（極軸合わせ）が必要となります。写真撮影をする方々の使用する赤道儀は厳密に極軸合わせが必要ですが、見ることを主目的の赤道儀（当機種）は、大まかなセッティング作業で十分です。

①赤緯軸の目盛環の90を指すように赤緯クランプを緩め赤緯軸の指標を動かします。90を指したら固定します。鏡筒の向きは、表紙の写真のようになります。



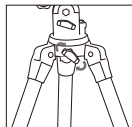
②次にファインダーを覗き、北極星をファインダーの中心に導入します。
動かすのは・・・
高度調節クランプで高さの調節
赤道儀固定ネジを少し緩め水平の調節

高さの調節



高度調節クランプを緩めたり締めたりして調節

水平の調節



赤道儀固定ネジを緩めて赤道儀全体を動かす

③北極星の位置がわからない場合、水平の調節は方位磁石を使い北を探し鏡筒を北に向け、高さの調節は高度目盛を使って観測地の緯度を指すように動かし固定します。観測地の緯度は、インターネットで簡単に調べられます。



主な都市の緯度

札幌	北緯 43 度	大阪	北緯 34 度
仙台	北緯 38 度	福岡	北緯 33 度
東京	北緯 35 度	鹿児島	北緯 31 度
名古屋	北緯 35 度	那覇	北緯 26 度

天体望遠鏡を使ってみましょう

ファインダーの光軸調整が終わったら、次は実際に天体望遠鏡を使ってみましょう。

お子様だけの天体望遠鏡の操作は危険です。必ず大人の方と一緒に操作してください。

●昼間に望遠鏡の操作を練習しましょう

天体望遠鏡をまったく触ったことがない方が、夜暗い中組み立てて操作してもなかなか上手くはいきません。まずは、昼間に地上の対象物を使って練習しましょう

1. 対物キャップを外し、低倍率の接眼レンズ（接眼レンズに書かれているmm数の大きいもの）を取付け、赤経クランプと赤緯クランプを緩め、目標物の方向に向け固定します。

空に近い目標物は、望遠鏡で覗いたとき探しづらいので、目標物の後ろが空でない地上のものを選んでください。
(例) 道路の標識や林や森の木など

2. ファインダーで対象物を捉え、望遠鏡本体で取り付けてある接眼レンズを使い、対象物を見ながらピント調節ノブを回しピントを見ます。ファインダーや望遠鏡本体で捉えている対象物の微調整は微動ハンドルを使って行います。



ピント調節ノブはゆっくり回してください。

3. ピントが合ったら、次は接眼レンズを交換して倍率を上げてみましょう。
接眼レンズを交換したら、ピントの位置が変わってきますので、2の操作をもう一度行います。

地上のいろんな対象物で練習し操作に慣れてきたら、天体を実際に見てみましょう。特に赤道儀は縦横でない特殊な動きをしますので、沢山練習をし体感で慣れていただくことをお勧めします。

ファインダーや望遠鏡本体で、太陽は絶対に見たり向けたりしないでください。失明の恐れがあり、また、発火の恐れもあります。

●実際の観察① ～月を見てみよう！～

まずは、誰でもさがすことができる「月」を望遠鏡で見ましょう。

月は、新月→三日月→半月→満月→半月→三日月→新月と、約29.5日周期で形が変わっていき、また、月の出・月の入りも日々変わってきます。

これらの情報は、インターネットや天文雑誌、天文シミュレーションソフト等で調べることができますので、参考にしてください。

月は古来よりとても身近な存在で、天体観察の対象としても最もポピュラーな存在です。

半月近辺の時はクレーターの凸凹した様子がわかり、満月のときは海の様子を見ることができます。

月は、月の出・入りの時刻を把握しておけば、簡単に見つけることができます。望遠鏡の操作方法は、昼間練習した操作方法と一緒に、焦らずゆっくりと操作し、月を観察してください。

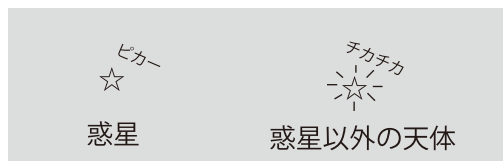
●実際の観察② ～惑星にチャレンジしよう！～

月の観察ができるようになったら、次は惑星の観察です。惑星は、地球と同じように太陽を中心に公転している天体で、実際に望遠鏡で形を観察できるのは、水星・金星・火星・木星・土星です。水星・金星は満ち欠けの様子を、火星・木星・土星は惑星本体の模様を観察することができます。

これら惑星の地球から見える位置は日によって変わり、星座早見盤のようなもので記すことはできません。月の時と同じように、インターネットや天文雑誌、天文シミュレーションソフトで見える惑星の位置情報を調べて観察してください。

惑星を探すときのコツ

惑星のおおまかな位置さえわかっているれば、簡単に探すことができます。惑星は他の天体と比べ、地球上の大気の影響を受けにくく、肉眼で見たとき光の点に見えます。(他の天体は瞬いてチカチカと見えます)



始めて惑星を観察するには、金星が一番探しやすいよ！！

●実際の観察③ ～星雲や星団など～

月や惑星などは、比較的簡単に探せ観察することができますが、星雲や星団は惑星などに比べ暗い天体になり、空の暗いところでないで見ることができません。

星雲・星団の位置は、星座早見盤や天文シミュレーションソフト・星図等を使って探してください。

天体望遠鏡のお手入れと保管

天体望遠鏡は精密機器です。ほこり・湿気・熱・衝撃などは大敵です。保管にあたっては以下の事項に注意して大切に扱ってください。

- ①使用後は、必ずキャップをしてください。
(夜露でレンズが濡れた場合は、乾燥させてからキャップをしてください)
- ②天体望遠鏡は、寒暖の差が小さく風通しの良い乾燥した場所に保管してください。熱や湿気があると、カビや錆の原因となります。
- ③天体望遠鏡を組み立てたまま保管する場合は、大きなビニールカバー等で全体を覆い、ほこりから守ってください。
- ④長期間使用しない場合は、ファインダーのボタン電池を抜いてください。(ボタン電池をお子様が吞み込まないようにご注意ください)
- ⑤レンズや鏡にほこりが付いたら、市販のプロアーで吹き飛ばしてください。
- ⑥レンズに指紋や汚れが付いたときは、市販のカメラレンズ用クリーニング液とクリーニングペーパーで軽く丁寧に拭き上げてください。
- ⑦レンズや鏡は特に精密に調整されていますので、決してご自分で分解をして清掃を行なわないでください。分解は、保証の対象外となりますのでご注意ください。
- ⑧車内での保管は、暑さで潤滑油が漏れ出したり、部品が破損する恐れがありますのでお避けください。

おかしいな?と思ったら・・・

修理などを依頼される前に、取り扱い説明書をよくお読みの上、つぎのような対処をしてみてください。

チェックポイント	対処方法
その1 のぞいても何も見えない・・・	
①接眼レンズをセットしてありますか？	接眼レンズをセットしてください(必須です)
②主鏡が夜露で曇っていませんか？	「うちわ」などで主鏡や接眼レンズをあおいでください。ひどいときは、一旦室内で自然乾燥してください。(レンズクロス等で拭いてしまうと、拭き跡が残ってしまいます)
③倍率が高すぎませんか？	一番低い倍率(26mm)をお使いください。
④ピントが大きくずれていませんか？	ピント調節ノブを前後にゆっくりまわして、もう一度ピント合わせをしてみてください。
⑤ファインダーと鏡筒本体が別のものを見ていませんか？	ファインダーと鏡筒が同じものを見ていない場合、もう一度ファインダーの光軸調整を行ってください。
その2 どの星を見ているかわからない	
①ファインダーと鏡筒が別のところを見ていませんか？	ファインダーと鏡筒が同じものをとらえているか確認してください。とらえていない場合は、ファインダーの光軸調整をもう一度行ってください。
②鏡筒が正しく目標の天体に向いていますか？	ファインダーの赤い点に観察したい星がきているかどうか確認してください。
③倍率が高すぎませんか？	一番低い倍率(26mm)をお使いください。
その3 ファインダーの赤い点が見えない	
①電源が入っていますか？または明るさボリュームが小さくなっていませんか？	電源を入れ、ボリュームを最大にしてください。
②電池が消耗していませんか？	新しい電池(CR2032)と交換してください。(向きに注意してください)

製品仕様

	80-10114
光学系	ニュートン式反射望遠鏡
対物レンズ径	114mm
焦点距離	500mm
F 値	F4.4
極限等級	12.08 等星
集光力	265.23 倍
分解能	1.02 秒
ファインダー	レッドドットファインダー
架台部	赤道儀式
三脚	スチール伸縮三脚
接眼レンズと倍率 (通常時)	26 mm：約 19 倍 9.7 mm：約 52 倍
付属品	接眼レンズ 2 個、 ファインダー、工具、取扱説明書・保証書

ファインダーの電池交換

- ①CR2032 ボタン電池 1 個をご用意ください。
②電池ボックスのふたをドライバーを使って開き、
下記図のようにファインダーを裏返した時に電池の
プラス面が上にくるようにセットしてください。



ファインダーを裏返す



- ③再び電池ボックスのふたをドライバーを使用して
締めてください。

【保証規定】

1. 本製品が万が一故障した場合は、販売店発行のレシートまたは購入日のわかる購入
証明書に記載されている購入日より表面記載の保証期間無料修理をいたしますので、
ご不明の点など右記「ケンコー・トキナーお客様相談室」へお問い合わせください。
2. 次の場合は、上記期間内でも保証の対象とはなりません。
(1) 使用上の誤りにより生じた故障。
(2) 当社の指定する修理取り扱い所以外で行なわれた修理、改造、分解掃除などによる故障。
(3) 火災、天災、地震などによる故障。
(4) 保管上の不備（高温多湿の場所、ナフタリンや樟脳の入った場所での保管など）
や手入れの不備などによる故障。
(5) 本保証書と販売店発行のレシートまたは購入日のわかる購入証明書の添付のない場合。
(6) 販売店名、ご購入年月日などの記載事項を訂正された場合。
(7) その他類似的起因による故障。
(8) 消耗品（電池・フラッシュの発光管など）のお取り替え。
3. 保証の対象となる部品は本製品のみで付属品および本製品に付帯している消耗品
類は、保証の対象とはなりません。
4. 本製品の故障に起因する付随的障害については保証致しかねます。
※ 本保証書は、以上の保証規程により無料修理をお約束するもので、これによりお客様の
法律上の権利を制限するものではありません。

【保証書の取り扱い上の注意】

1. 本保証書をお受け取りの際は、必ず販売店発行のレシートまたは購入日のわかる購
入証明書と一緒に保管してください。
2. 本保証書は紛失されても再発行致しませんので、大切に保管してください。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

【アフターサービスについて】

1. 修理完了品には、当社より修理明細書（修理伝票）が発行され
ますので、修理品をお受け取りの際はご確認ください。
2. 部品の保有期間などアフターサービスに関する事項や、保
証期間経過後の修理等についてのお問い合わせは、下記
「ケンコー・トキナーお客様相談室」ご利用ください。

ケンコー・トキナーお客様相談室

0120-775-818

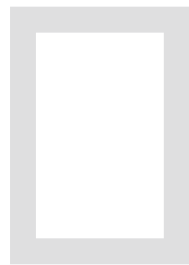
【携帯 / PHS / IP電話】 03-6840-3389 (有料)

受付時間: 月～金 9:15～17:30 (土、日、祝日、年末年始を除く)

<http://www.kenko-tokina.co.jp/address.html>

【個人情報について】

- 本保証書を通してお客様よりご提供いただいた個人情報
は、弊社修理業務以外の目的には使用いたしません。
●ご提供いただきました個人情報に関しては、個人を特定で
きない統計的データに加工して利用する場合があります。
●弊社は、お客様の個人情報を第三者へ開示いたしません。
但し、以下の場合を除きます。
※お客様の承諾を得た場合。
※お客様の明示した利用目的の達成に必要な範囲内において、
業務委託先に個人情報を開示する場合。但し、この場合に当
社は、法令上、個人情報の安全管理が図られるよう、当該業
務委託先に対して必要かつ適切な監督義務を負います。



**NATIONAL
GEOGRAPHIC™**